

さくらだより

第15号

2010年11月1日

社会福祉法人京都老人福祉協会 京都市伏見区深草大亀谷東古御香町59番地・60番地 TEL.075-641-6622 FAX.075-641-6746



しとば

交流から生まれる地域福祉

京都老人ホーム 施設長 柴田 雄一

昨年2月、京都老人ホームの演芸大会に「うづら保育園」の園児さんたちがうたを歌いに来てくれました。お年寄りが大勢並んでいる前で、20人ほどの園児たちは思いきり元気な声で一生懸命に歌ってくれます。まるで叫ぶように力一杯歌う子供たちの無垢な姿を見て、お年寄りの中の何人かは目に涙を浮かべ、他の数人は拝むように両手を合わせて、また他のお年寄りは目を細めて笑みを浮かべて、大拍手をおくり、会場全体が世代を超えた、大きな一体感で包まれていました。全く初対面なのに、園児さんとお年寄りとの間には、まるで家族のような温かい電流が何かが流れているかのように感じました。

このような世代間交流をはじめ地域住民の皆さまとの様々な交流、近隣の小学校や総合支援学校との行事参加による交流、学区福祉委員会、自治連合会の活動への参画、といった行事を核とした交流のレベルを日常的に積み重ねていくことを第一段階と位置付け、私たちはその次の段階Ⅱ行事ではない日常的なお隣同士のおつきあい、お互いの顔が見えて声が聞こえて、気軽に挨拶を交わし合う、個々の扉を開けてお互いに信頼できる隣人同士となる段階を目指したいと思います。

昨今のニュースでは、家庭内の児童虐待や介護に行き詰まった末の高齢者虐待、行方知れずの長寿者、インターネットやケータイを悪用した顔の見えない犯罪など、不気味な「無縁社会」が映し出され、都市でも農村でも孤立無援に追い込まれた、「交流」する相手のないままの人が多くバラバラでいます。こんな時こそ、私たち福祉施設存在価値が問われています。既存の制度・規定に限定せずに、地域の社会資源としてもっともっと扉を地域に広げて交流と連帯の手をつなぎ合ってください。そこから生まれるものを大切に。



ハートで
ぬくもりと安心を
お届けします
京都老人福祉協会



「新たな交流」

養護老人ホーム 澤田真由美

今年度より養護でお世話になって
いる澤田です。
今回「交流」というお話を頂
き、その意味を調べてみると「異
なる系統のものが交わること」
でした。
そこで、最近始まった新たな
交流についてお話したいと思
います。



趣味を通して広がる交流、代々受け継
がれてきた「味」を大切に、さらに追及
しつづける「食」の交流。夏祭りでのあ
たたかな心のふれあい。子供たちとの世
代間交流の場では、自然に笑顔がほころ
びます。うづら保育園での合同交流で
は、年下への思いやりの気持ちや、お兄
さん、お姉さんへの尊敬、憧れの気持ち
を育てます。いろいろな取り組みが利用
者とご家族様との交流のきっかけとな
ることを願う職員たち。また、地域活動
の積極的な参加も始めています。
今回は「交流」をテーマに、ご利用者
さんとご家族様、地域の方や子どもたち
とのふれあいをご紹介します。

と対局したかったのしょう
か？
そんなある日、デイサービス
の職員と話をしている中で、デ
イサービスの利用者の中にも将
棋の対局の相手を探している方
がおられることを知り、とんと
ん拍子に話が進み、養護の入居
者がデイサービスを訪問する
という形でこの交流がスタートし
ました。
始めこそは職員の声かけが必
要でしたが、すぐ自ら
時間をみてデイサービ
スを訪問される様にな
り、今では「いつもお
茶をよばれているか
ら」と2人分の缶コー
ヒー持参で出かけられ
る程です。
デイサービスの利用
者も「今日もあの人来
てくれるんか？」と心
待ちにされており、将
棋をさしながら笑った
り、頭をかかえたりと
趣味の将棋を存分に楽



しまれている様子です。
養護老人ホームと言う「施設」
入居者と、デイサービスという
「在宅」サービス利用者、垣根を
越えたまさに異なる系統の者の
交流を体験することで、入居者
のニーズには、職員が感じてい
る垣根などないことを教えても
らえた様に思います。
これからも入居者と一緒にお
付き合いの幅を広げていけたら
いいなと思っています。



「なかよしの日」

うづら保育園 濱口友佳理

近年、少子化傾向にあり、兄
弟間から生まれる年下への思い
やりの気持ちや尊敬、憧れの気
持ちが家庭で育ちにくくなっ
ています。
そこでうづら保育園では、月
に二回「なかよしの日」という
三〜五歳児の子ども達が合同で
あそぶ日があります。異年齢児
との交流を目的としたもので、



一年を通して行っています。中
でも「夏のなかよしの日」には、
ポディーペインティングやスラ
イム、しゃぼん玉、氷あそびと
いった夏ならではのあそびを保
育園全体で楽しんでいます。
その中で、ポディーペインテ
ィングが一番盛り上がり、いろ
いろな色のポスターカラーを用
意し、筆や手を使い全身えのぐ
まみれになってあそびます。友
だち同士でぬり合いっこや髪の毛
にまで色をつけ、「へんしん
〜!」「ギャオ〜!!」と怪獣や
キャラクターになりきってあそ
んだりしています。楽しみ方も
様々で、子ども達はこの日が来
るのを毎年楽しみにしています。
子ども達にとっても、年下の
子どもへの思いやりの気持ちや、
尊敬や憧れの気持ちを育てる機

敬老祝賀式

「敬老の宴ほがいに、ホームにありて」

この句は長寿を代表して挨拶をして下さったYさんが詠んだものです。
さる9月18日に、京都老人ホーム大食堂にて盛大に「敬老祝賀式」が
執り行なわれました。米寿、長寿を合わせて91名の人が祝福をうけまし
た。その中で百歳以上の人が8名いらっしゃいました。最長寿は特養で
103歳、養護で102歳でした。
102歳のHさんに長寿の秘訣を尋ねてみました。「特にはない。皆
が大事にしてくれる。
ここに来た頃は庭の草
引きや旅行やらでとて
も楽しかった。いい思
い出です。」と語って
下さいました。
皆様、これからも元
気で長生きをして下さ
い。長寿に乾杯!




「夏祭りでのひととき」

板橋の町家ほっこり 竹村菜々恵

板橋の町家ほっこり小規模では昨年より夏祭りを開催していません。今年は、初めての企画として板橋全体でご家族や運営推進委員の方にも参加を呼び掛け

て行い、たくさんの方に来て頂きました。最初は輪に入られないうご家族もおられました。職員や利用者様の声掛けによって入って下さいました。



なんくるないさあ〜演奏風景

お祭りでは、昼食にお好み焼きや焼きそばなどの出店を出し、皆様と職員と一緒に昼食をとりながら談笑しました。食後ゆったりしている中、利用者様がご家族に「この職員さんはおしゃべりが上手やねん」とか「この人が前話してた人やで」等と職員を紹介して下さい方もおられました。

ご自宅ではほっこの話をたくさん話しているのが伝わりました。

あるご家族が利用者様何人かと一緒に歌をうたっておられ、職員も輪に入りました。ちょっとした時間でこのような空間が出来上がり嬉しくなりました。

食後の一服が終わり、今回の夏祭りの大イベントの一つ京老の三線サークルの演奏を聞き、歌ったり踊ったりと楽しんで頂きました。

そして最後に、利用者様に割っていただいたスイカをみんなで頂きました。

お祭りの後、ご家族に「母のほっこりでの様子が見れて良かったです」「職員さんや周りの方によく話しかけてもらっている姿を見て安心しました」などと



出店

「日常の中での触れ合い」

稲荷の家ほっこり 景山 寛子

稲荷の家ほっこりにいると、日々の中で、色々な方々と触れ合う機会があります。利用者さんはもちろんのこと、送迎時にお会いするご家族の方やご近所の方、2階を利用していらっしゃる子どもさん・ご両親などです。その中から、今回は2階の方たちとの触れ合いについて書いていきます。

稲荷の家ほっこりには、1階に小規模居宅介護支援事業所、2階に「つどいのひろば」という子育て支援センターがあります。

同じ建物の中にあるとはいえ、お年寄り子どもたちが自然と触れ合う機会はあまりありません。その為、月に1回「世代間交流」と称し、1階の高齢者と2階の子どもたちの触れ合いの

場を設けています。毎月の行事は様々ですが、今年度はマグネツト作りやうちわ作り、8月29日には納涼祭を行いました。子どもたちと同じ空間にいると、お年寄りは自然と顔がほころび「こっちおいで〜」といったも違ったおじいちゃん・おばあちゃん顔になられます。同世代のお年寄り同士でもお話に花が咲きますが、子どもたちとの触れ合いはお年寄りからさらに素敵な笑顔を引き出してくれます。

これからも、定期的にこういった交流の場を設けさらには自然と関われるようになっていければ、と思っています。

また、稲荷の家ほっこりでは、地域密着型サービスを行う事業所として地域との関係作りを今後どのようにして行っていくか

を課題としています。2階を利用されている方や送迎時等にお会いするご近所の方に笑顔で元氣よく挨拶することはもちろん、世代間交流等、身近なことから取り組んでいます。また、9月から月に1回、砂川小学校の校

門を警備するボランティアにも参加していく予定です。今後、より地域に密着した事業所として活動できるよう、地域との交流を深めていきたいと考えています。



いつもの風景に子ども達と

「交流のきっかけ」



特別養護老人ホーム 長谷川雄二

みなさん、いつもお世話になっております。特別養護老人ホーム京都老人ホームの相談員として4年目になりました。

私が就職したての頃は分からない事が多く色々な方へご迷惑をおかけしていた？しているのではないかと思えます。今回「交流、関わり」というテーマを耳にし、経験した事、思う事を書かせて頂きます。

入居されている利用者さん一人一人にはその人の歴史があります。利用者さんの中には、家族の支援を受けながら在宅ですと頑張ってこられた方、家族とあまり関わってこられず現在も疎遠な状態が続いている方、身寄りがないという方等いろいろな方がおられます。

施設に入所されますと身体的

な介護の他に、洗濯等の日常的な事はほとんど職員が行いますので、利用者と家族が直接接する機会がありません。ではないかと思えます。相談員になって2年目のことでした。ご家族に「また面会に来て下さい」とお話しした時に「今まであまり関わってこなかったから、どう関わったらいいのかわからない」と言われた事がありました。「ご家族でもそのように思っている方もおられるのだな」と思うようになりました。

しかし、施設に入所されたのをきっかけに関わりを強めてくださるご家族もおられます。毎週末の面会、家族会への参加や日常的に食事介助にきてくださったり、洗濯をご家族でしたいというご希望から毎週取りに来

て下さる方等です。もちろん、こういった関わりを全てのご家族にお願いしているというわけではありませんが、やはり家族という存在は非常に大きいものといえます。

先日施設で納涼大会がありまして、地域の方も含めているような方に来て頂き、盛大に行われました。しかし、施設の行事だけでなく日常的な情報ももっと共有していく事で交流の機会が増え、色々な取り組みができるのではないかと考えています。また、ご本人さんの事だけではなく、家族会もあって、活動の中でご家族様同士交流していただけますので、色々な面で施設を「交流



のきっかけ」としてこれからも関わって頂けたらと思いますし、その為のきっかけ作りをしていきたいと思っています。

～職員紹介～

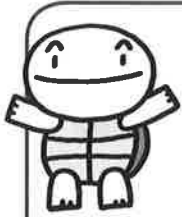
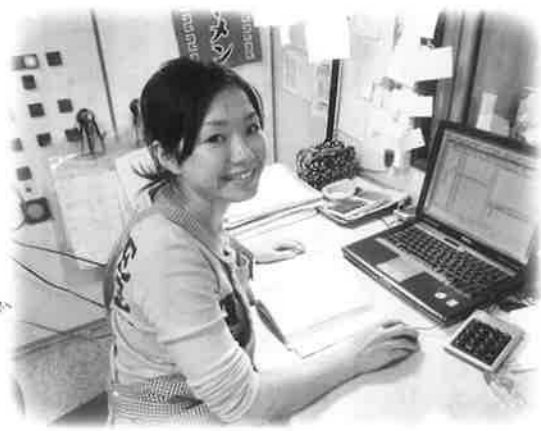
「牧野色」

京都老人ホーム給食事業部
きつちん「やくの」
牧野 未希

こんにちは！ きつちん「さくら」で厨房スタッフ兼栄養士をしている牧野未希です。

入った時から元気が取柄で、利用者様や職員からは「毎日元気だなあ！」「牧野さんが出勤している」と、厨房から牧野さんの音がする「牧野さん見ていたら元気になれる」とよく言われています。

私が京都老人ホームで働き始



今回の交流にちなんだブログをひとつご紹介いたします。

可愛いお客様パート2♪

久しぶりに板橋の町家ほっこりに、かわいいお客様がきて下さいました。

6月に行ったほっこり朗読会に、近所にある保育園の年長組さんが来て下さってから、もう3ヶ月が経ちました。今回は保育園の年中組の園児たち10名が遊びにきてくれました。

始まる前から先生の言われる事をしっかり聞いて、体育座りをして待っていた園児さん。

その後ろに椅子を並べて座っていた利用者様。朗読会が始まったとたん、皆さん物語に集中！ あっという間に物語のなかに入りこみました。

その後、園児さんと一緒に歌体操をして身体のコリをほぐしました。

短い時間でしたが、小さなお客様に感動していた利用者様。良い時間になりましたね。

朗読ボランティア様、ご協力ありがとうございました。



ホームページのブログに各事業所の日々を綴っています。続きはWebで!!

WEBサイトをリニューアルしました!
http://kyoro.or.jp
京都老人福祉協会 (検索)

めて早2年半。今、私は先輩や後輩、同期等、沢山の仲間と一緒にきつちん「さくら」で働いています。先輩が代々受け継いできたきつちん「さくら」の味を一生懸命に学び、今度はその味を変えてしまわぬように、先輩へと伝えていきます。一言に食事といっても、利用者様の生まれ育ちが違うように、人それぞれ好みの味が違います。皆様に美味しいと言っていたただける

食事を作るといのはとても大変な仕事です。しかし、利用者様が「美味しい」と言ってくださったり、時には「こうやったらもっと美味しくなるんだよ。もっと自分で勉強しなさい」と言ってくださったりすると、利用者様の生活と切っても切れない大切な仕事をしているんだ、もっともっと美味しい食事が提供できるようになりたいと日々仲間と共に頑張っています。

この春からは、在宅施設へ提供している食事の献立を担当しています。昔から受け継がれているきつちん「さくら」の食事や牧野色の新しい食事等、利用者様に楽しみにしていただけの献立を目指しています。

今日も明日も、私はきつちん「さくら」や京都老人ホーム、伏見区内を、牧野の音を出して動き回っています。見かけた方は声をかけてくださいね!

醍醐・小栗栖エリア紹介

今回は醍醐・小栗栖エリアの事業所を紹介いたします。

平成21年春に小栗栖の家ほっこりがオープンし、現在、醍醐・小栗栖エリアには4箇所の事業所があります。このエリアの特徴は、4つの事業所で多様なサービスが提供でき(表1)、「地域に住む要介護高齢者の多様な介護ニーズに応えることができる」ということです。例えば醍醐の家ほっこりについては、グループホームや認知症対応型デイサービス、小規模多機能型居宅介護といった、「認知症高齢者の生活を支える機能が備わっている」こと、春日丘センターについては、緊急ショートステイを受け入れることができる等、各事業所の特徴が明確で、事業所間での連携が取れるのもこのエリアの特徴です。

醍醐・小栗栖地域は、伏見区内の他の地域と比較しても団地の多い地域で、中には築35年を越える団地もあります。近年は団地に住む独居の方や高齢者のみの世帯の方の利用が多くなっていますが、要介護認定を受けておられない方、サービスを利用されていない要介護者もまだまだ多いと思われます。

また、春日丘センターの予防デイサービスやおぐりすセンターの予防訪問介護を利用されている方も年々増えているといった状況から、地域包括支援センター、役所の介護保険

(表1) 醍醐・小栗栖エリア事業所と事業内容

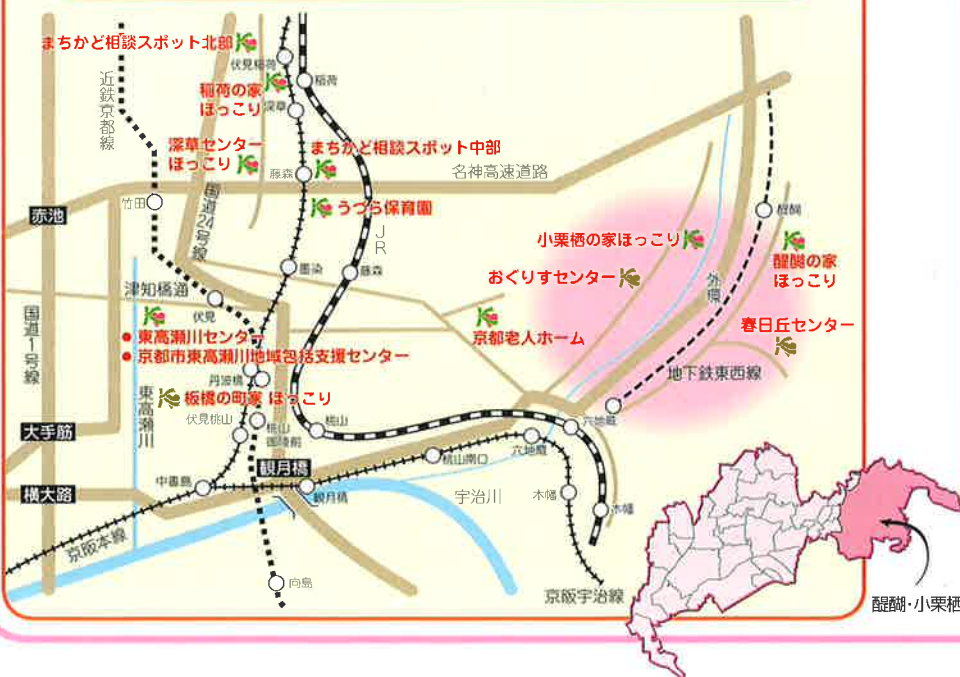
春日丘センター	<ul style="list-style-type: none"> ● デイサービス(予防デイサービス含む)合計 ● ショートステイ ● 居宅介護支援事業所 	定員数 30名 定員数 30名
醍醐の家ほっこり	<ul style="list-style-type: none"> ● デイサービス(予防デイサービス含む) ● 認知症対応型デイサービス ● 小規模多機能型居宅介護 ● グループホーム ● 居宅介護支援事業所 	定員数 18名 定員数 12名 定員数 25名 定員数 18名
おぐりすセンター	<ul style="list-style-type: none"> ● 訪問介護・介護予防訪問介護 ● 居宅介護支援事業所 	
小栗栖の家ほっこり	<ul style="list-style-type: none"> ● 小規模多機能型居宅介護 ● 地域密着型老人福祉施設入所者生活介護 ● 高齢者専用賃貸住宅・さくらハウス 	定員数 25名 定員数 18名 戸数 14戸

係、支援係をはじめとする他の関係機関とも連携し、要支援者のニーズにも応えています。

京都老人福祉協会としては、初めての取り組みである地域密着型老人福祉施設と高齢者賃貸住宅があるのが小栗栖の家ほっこりです。

制度の改革により、次々に新しいサービスが増えていますが、「介護を受けるようになってからも、住みなれた地域で、家で暮らしたい」といった思いを支えるといった点はこれまでもこれからも変わりません。醍醐・小栗栖地域に住む高齢者の方が安心して暮らせるためのお手伝いを今後もさせていただきます。

社会福祉法人 京都老人福祉協会グループ



お知らせ

「香山リカ講演会」開催

基調講演・講師 香山リカ

もっと自由に生きてみませんか

何かにしがみついているあなたへ

パネルディスカッション

いま、地域の中で暮らしを考える

日時：平成23年1月23日(日)

午後1時半～4時まで

場所：龍谷大学・深草キャンパス 2号館401号室

※当日は保育室を設置しております

お申し込み方法

指定の申し込みハガキでお申し込み下さい。詳しくは事務局まで。

(事務局) 京都老人ホーム内
TEL (075) 641-6622

主催：ふくしネットワーク・深草